

組合だより

【 第348号 令和5年6月 日本羊腸輸入組合 】

5月の総会・理事会

○ 5月26日(金)、第60回通常総会、令和5年度第1回理事会が開催されました。審議結果等は以下のとおりです。

なお、松永理事長の総会開催挨拶は、【参考情報・お知らせ】欄に掲載しております。

1. 出席者内訳

組合員ご本人様のご出席	8名
代理でのご出席	5名
委任状によるご出席	3名
議決権行使による御出席	5名
計	21名(2社未回答)

2. 議案審議の結果

上程された議案の全議案が、原案どおり可決承認されました。

3. 令和5年度役員

役員選挙結果を踏まえ開催された第1回理事会において、定款第37条第1項に規定する専務理事が選任されました。

この結果、令和5年度の役員は次のとおりです。(敬称略)

理事長 : 松永大介

副理事長: 関 道康 副理事長: 角一健二郎

専務理事: 山村直弘

理事 : 尾上康浩、佐藤和統、玉川秀彦、森嶋隆仁

監事 : 遠藤 久、新宅久夫

5月の事務局活動

○組合員関連

・事前配布された通常総会提出議案に関して、組合員からの御質問にお答えしま

した。

- ・天然腸輸入報告統計協力13社に対し、令和5年4月分の結果報告と令和5年5月分の報告依頼を行いました。

○関係省庁・団体関連

- ・経済産業省農水産室を訪問し、第60回通常総会提出議案について内容説明を行いました。
- ・一般社団法人日本貿易会 河津専務を訪問し、天然腸輸入の現状について御説明しました。

○その他

- ・第60回通常総会の会場となるホテルマイステイズ五反田駅前との通常総会開催の最終確認を行いました。

統計 *統計の詳細は組合ホームページで御確認下さい。

【財務省貿易統計】

令和5年4月の天然ケーシング輸入量は、次のとおりです。

- ・総輸入量 318.9t (前月比 Δ11.4t、 96.5%/前年同月比Δ46.3t、 87.3%)
- ・中国原産 257.0t (// +41.3t、 119.2%/ // +23.2t、 110.0%)
- ・豪州原産 22.4t (// Δ24.2t、 48.1%/ // Δ46.4t、 32.5%)
- ・NZ原産 35.9t (// Δ14.2t、 71.7%/ // Δ 8.7t、 80.4%)

【ソーセージ生産量(日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べ)】

令和5年4月のソーセージ生産量は、次のとおりです。

- ・ソーセージ類合計生産 : 27,026.2トン (前年同月比 : 96.3%)
- ・ウィンナーソーセージ : 19,764.2トン (// : 96.7%)
- ・フランクフルトソーセージ : 3,625.7トン (// : 98.1%)

参考情報・お知らせ

○松永大介理事長の第60回通常総会開催挨拶

本日はご多忙の中、日本羊腸輸入組合第60回通常総会にご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。本総会開催にあたり一言ご挨拶させていただきます。

本日の総会はコロナ・ウイルス感染者数の減少を受け、4年ぶりの対面での開催となりました。60回の節目の総会を無事に迎えられたことは、ひとえに皆様方の日頃のご尽力の賜物と思い、厚く御礼申し上げます。

振り返れば、食品のサプライチェーンに携わる者として、大変難しい判断を迫られる3年間でした。もともと当業界は原料を100%輸入に頼っており、世界的なパンデミックによる人流、物流の混乱により原料確保に大変苦勞いたしました。さらにお客様に納品する製品はほぼ手作業により生産されることから、生産工場でのクラスターはお客様にご迷惑をお掛けするばかりか、業界全体の信頼を失いかねない状況にありました。各組合員はその責任を重く受け止め日夜奮闘していたと思います。ここに各組合員、関係者を称えさせていただきたいと思います。

また、コロナ禍における巣籠需要などにより、国内需要は堅調に推移し、ハム・ソーセージメーカー様の並々ならぬご尽力の結果、当業界としても大きな痛手を被ることなく、事業が継続できました。あらためて諸官庁、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

さて、当業界の喫緊の課題は、組合事業の発展と、原料サプライチェーンの安定化と考えています。

組合事業の発展に関しましては、監督官庁の経済産業省のお力添えをいただき、輸出入取引法に基づく輸出入組合としては初となる賛助会員制度を制定できる予定です。物流企業やハム・ソーセージメーカーなどの賛同をいただき、幅広い視点から、原料原産地の現状や、輸入物流に関する課題、消費者志向の変化などについて幅広い意見交換を通じ個々の企業では成しえない組合としてのネットワークを確立させたいと考えています。また5年後、10年後を視野に入れた衛生基準の取り組み、持続可能な開発目標、いわゆるSDG'sの精神に基づく人材確保、安定雇用などにも取り組んでいきたいと存じます。

次に、原料サプライチェーンについては、皆様ご周知のとおり、日本は原料の調達を100%輸入に頼っています。2000年前後に発生した世界的なBSE問題の関係で、それまでほぼすべての国々から可能であった天然腸の輸入は現在11か国にとどまっています。また、昨年輸入実績のあった国は8か国ですが、全体の95%が中国、オーストラリア、NZの3か国からの輸入と大変偏っています。

天然腸の原料サプライの安定化は、原産国、加工国などの様々な形態で世界中を流通する天然腸を如何にして理解し、スキームをもって乗り越えるかがカギとな

ります。また、天然腸は世界各国の旺盛な需要に支えられ、経済状況も反映された世界市場となっています。円安やロシア・ウクライナ情勢等による、市場での日本の購買力低下やユーティリティーコストの高騰なども含め、今後も予断を許さない状況ではありますが、組合員一丸となって輸入対象国の拡大、中国等の加工施設の追加等に向けて関係省庁、海外の関係団体とも連携をとり日本のポジションの堅持に努めたいと思います。

日本において天然腸を使用したウィンナーソーセージはもはや文化と言っても過言ではありません。肉粒感、味付け、スモークなど繊細なアレンジで私たちの食卓を賑わしてくれるウィンナーソーセージ。お弁当のおかずにも、お酒のおつまみに、屋外レジャーに欠かせないウィンナーソーセージ。我々は安心、安全な天然腸をお届けすべく、今後も努めてまいります。

最後に、本日お集まりの皆様のお力添えをいただき今後に向けて建設的なトピックを中心とした議論を持ちまして本総会を成功させたいと存じます。あらためてご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます、開会のご挨拶とさせていただきます。

今後の主な予定

○7月19日(水) 令和5年度第2回理事会

以上